

田畑政治のレガシーを受け継ぐ

郷土の英雄に続け!

世界に羽ばたく 学生アスリート

浜松出身の田畑政治や古橋廣之進のレガシーを受け継ぎ、その道の頂点を目指す学生アスリートたち。彼らの日常と、その思いに迫る。



Profile
高野裕也くん
浜松市立高校2年生
2016年、全国中学校総合体育大会200m自由形・400m自由形で優勝。(全国2冠)。

同志であり、良きライバル

世界の舞台で雌雄を決したい

11月にブラジルで開かれた12歳から17歳の体育大会「ブラリアン・ユース・スクールゲームス」。今大会に招待を受けて水泳競技に出場した浜松市立高校の高野裕也さんと浜名高校の湊太陽さん。今、彼らが目指すものは。

いつから水泳を始めたのですか? そのきっかけは?

〔湊くん〕僕は2歳の時です。両親が水泳のコーチだったので、幼い頃から始めたのは自然な流れでした。小学低学年のとき「育成コース」に上がった頃から、競うことの楽しさにハマりました。他のことではそうでもないのですが、水泳では負けず嫌いを発揮できるみたいです。

競泳

〔高野くん〕僕は3歳の時に、喘息気味だったため、スイミングスクールに通い始めました。水泳をやっていた姉が「特練コース」で泳ぐ姿を見て、自分もレベルアップしたいと思ったのを覚えています。

毎日どんなトレーニングをしているの?

〔湊くん〕筋トレと体幹トレーニングをした後、トータルで8000m泳ぎます。僕は1500mがメインなので、練習時間は2時間半くらいで結構長いと思います。大会前は泳ぎ込みます。フォームの微調整に入ります。〔高野くん〕僕は400mが専門なので、1日でトータル5000m泳ぎます。もちろん他にも、筋トレやストレッチなど身体のメンテナンスも行っています。

お二人はどのような関係ですか?

〔高野くん〕所属のスイミングクラブが違うので、普段の練習も別々で専門距離も違いますが、小学校の頃から大会や合宿では一緒でした。静岡県主催の海外合宿では、中学2年のときはサイパンに、中学3年と高校1年の時はマレーシアに行きました。その時も湊くんと一緒でしたよ。

〔湊くん〕いつもは心強い仲間、同志であり、水中では良きライバルですね。

11月のブラリアン・ユース・スクールゲームスには一緒に出場されましたね。

〔高野くん〕初の国際大会で不安でしたが、最高のパフォーマンスができました。200m自由形2位、100m自由形4位という好成績を出せました。ブラジルの学生もみんなフレンドリーで楽しかったです。〔湊くん〕ブラジルの選手は、筋肉がしっかりついて、競泳に理想的な体で、力強い泳ぎが印象的でした。僕は200m個人メドレー3位、800m自由形4位でした。レース後は握手をし、お互いをたたえ合いました。この経験をバネに、来年の夏につなげていきたいです。

今の課題と今後の目標は?

〔高野くん〕ストロークを大きくすることで、レース後半に追いつけるのが自分の持ち味でしたが、高校生になってから通用しなくなってきました。周りの選手たちの体格が大きくなり勢いがついてきたので、スタートから全力で泳ぎ切れないと勝てません。今年はインターハイ決勝に残れなかったので、来年こそ優勝したいです。最終目標は、憧れの瀬戸大也選手のようなオリンピック選手です。〔湊くん〕僕も今、肉體改造の最中です。必要な筋肉をつけて1500mにちょうど



浜松市とブラジルオリンピック委員会が2020年東京オリンピックに向けての事前合宿開催の覚書を締結した縁で、2017年からブラリアン・ユース・スクールゲームスに招待されている。2017年の種目は陸上競技だったが、2018年は競泳が選ばれた。



Profile
湊太陽くん
浜名高校2年生
2018年、浜名湾高校生選手権水泳競技大会1500m自由形で優勝。

良い身体に仕上げないといけません。目標は来年のインターハイで表彰台に上がること!そして目指すは東京オリンピックです。今回は一段と盛り上がるでしょうし、そんな舞台に立てたら素晴らしいですね!田畑がこだわったクロールで、世界のワントゥーを争った古橋と橋爪のように、切磋琢磨しながら泳ぎに磨きをかける二人。目標に向かっては彼らの瞳は眩しいほどに輝いていた。きつとこれからの日本の競泳界を盛り上げてくれるに違いない。

part 2 飛込 目標は2020年 オリンピック出場 センターポールに日の丸を



Profile
伊熊扇李くん
浜松学院中学校2年生
2017年、2018年全国中学校総合体育大会で2年連続2冠。

2017年、「飛込」の日本代表に選ばれた伊熊扇李くん。2018年の夏、全国中学校体育大会の高飛込、飛板飛込で2冠を達成。第59回静岡県体育協会奨励賞を受賞した。そして11月17日から19日には、TOBIOで開催された飛込み日本代表の合宿に参加。世界の頂点を見据えた有力選手だ。飛込は、一定の高さから飛び出し、入水までのわずかに2秒弱の間に、技の美しさを競う。伊熊くんの得意技は、1回転半する間に3回半ひねりをする技だ。今の課題は大会出場数を増やすこと。演技中、自分が何メートル地点にいるかを景色で捉えるのだが、会場が異なればもちろん景色も変わる。そのため、場所が変わっても常に実力を発揮できるよ

part 3

アーティスティック スイミング (シンクロナイズドスイミング)

イール浜松の名を世界に! 優雅な演技で多くの人を 魅了したい

浜松の特産物であるうなぎの英名をチーム名にした「イール浜松」。小学生から高校生までが所属するアーティスティックスイミング(シンクロナイズドスイミング)のキャプテンの青島たまきさんは、チームの卒業生である中村美詞さんとのデュエットで、2018年全国ジュニアオリンピック大会に出場。目標にしていた全国大会で演技ができたことはうれしく、良い経験になったと語る。青島さんの課題は表現力と柔軟。高校生になると、より難易度の高い技や繊細な表現力が求められる。そのため日常的に音楽を聴くことを意識し、体幹トレーニングで強化している。華やかなイメージの裏側にある、想像以上に過酷な練習。柔軟や筋トレなど陸上トレーニングを1時間、立ち泳ぎの練習から音楽に合わせた水中演技を2時間、



スパンコールが輝く美しい衣装を作るのは、選手たちのご家族。選手にとって水着は戦う勝負服。心を込めて作られている。

トータル3時間の練習を毎日続ける。2026年に開催されるアジア競技大会では、いつもの練習場である、TOBIOがアーティスティックスイミングの会場となる。「大会会場が開催される地元のチームとして誇りを持ち、イール浜松がレベルアップできるように頑張りたい。そしていつか、イール浜松のメンバーが日本代表のメンバーに選ばれたい」と、今日の練習にも力が入る。



Profile
イール浜松
キャプテン
青島たまきさん
浜松聖星高校2年生
2018年全国ジュニア五輪大会に出場。